

第 133 回沖縄県医師会医学学会総会



広報委員 間仁田 守



第 133 回沖縄県医師会医学学会総会日程

会 期：令和 4 年 12 月 11 日 (日)
 会 場：沖縄県医師会館
 第 133 回沖縄県医師会医学学会総会開会宣言
 第 133 回沖縄県医師会医学学会総会会頭挨拶

特別講演

「沖縄県における肝移植医療の現状と将来」

座長：沖縄県外科会 会長 川畑 勉
 講師：琉球大学大学院消化器・腫瘍外科
 琉球大学病院 第一外科 教授 高槻 光寿

ミニレクチャー

- ①座長：琉球大学病院 光学医療診療部 助教 金城 徹
 講師：沖縄県 保健医療部 地域保健課 疾病対策班 主任 森 理菜
 演題：「国や沖縄県の難病対策（概要）」
 ～ 医療費助成や医療提供体制整備事業等
 について～
- ②座長：沖縄漢方医学研究会 会長 友利 寛文
 講師：北中城若松病院 認知症疾患医療センター
 センター長 遠藤 一博
 演題：「認知症に伴う精神神経症状に対する
 漢方治療について」

一般講演 (ZOOM 開催)

沖縄県医師会医学学会賞 (研修医部門) I
 沖縄県医師会医学学会賞 (研修医部門) II
 沖縄県医師会医学学会賞 (研修医部門) 選考委員会
 沖縄県医師会医学学会賞 (研修医部門) 結果発表
 分科会長会議

沖縄県医師会医学学会長の名嘉 勝男先生による開会のご発声により、令和 4 年 12 月 11 日に第 133 回沖縄県医師会医学学会総会は幕を開けました。沖縄県医師会医学学会総会の始まりや変遷についてのお話もあり、本会の意義深さについて再認識いたしました。

今回もコロナ禍の中でも非常に多くの演題が専門分野および研修医部門に寄せられ、活発な討議が繰り広げられました。

特別講演では、「沖縄県における肝移植医療の現状と将来」のタイトルで琉球大学大学院消化器・腫瘍外科 琉球大学病院第一外科教授 高槻 光寿教授より移植についてわかりやすくご講演していただきました。高槻教授は台湾での留学経験もあり、同じく台湾留学の経験のある私にとっては非常に親近感を感じました。

毎年好評のミニレクチャーでは沖縄県 保健医療部 地域保健課 疾病対策班 主任 森 理菜さんと北中城若松病院 認知症疾患医療センター センター長 遠藤 一博先生に目から鱗のご講演を賜りました。

多くの先生方が朝早くから会場にも参集し、実りある特別講演、レクチャーであったと感じました。

私は、開会のご発声の1時間前に会場に入りましたが、すでに医師会のスタッフの方が忙しそうに準備をなさっていました。このような裏方のスタッフの方々なしでは、この立派な会も開催できないと感じ、感謝しかありません。そして、研修医部門で発表する先生方が、最終チェックをしている姿を見ることができました。研修医の質の高さに目を見張るばかりでした。自らが経験した症例報告や臨床研究と、内容に関しても非常に興味深いものが多くみられました。また、発表や質疑応答の態度も、とて

も研修医とは思えない立派なものでした。

研修医の先生方のこれからの発展に期待します。

一般演題は未だコロナの影響で現地開催とはならず、Web開催となっていました。多くの専門分野から多くの興味深い症例報告や臨床研究が発表され、熱い質疑応答がなされていました。

おそらく多くの地方都市でもこのような医学会総会を開催している県は多くはないと思います。研修医からベテラン医師、多くの専門分野が一堂に集う本会が、以前と同様な対面での開催を望みたいと思います。

医学会頭挨拶 (抄録)

第133回沖繩県医師会医学会総会
名嘉 勝男



第133回沖繩県医師会医学会総会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。この度は、伝統ある沖繩県医師会医学会総会の会頭に、ご指名をいただき、身に余る光栄であります。安里哲好県医師会会長、砂川博司医学会会長ならびに湧上民雄南部地区医師会会長、そして会員の皆様に心から感謝を申し上げます。

学術の振興は医師会事業の最も重要な取り組み事項であります。県医師会主催の医学会総会が毎年2回、精力的に開催されてきましたが、これも歴代医学会会長をはじめ、本会の各科専門家集団による分科会の会長、所属会員の活発な学術活動の取り組みのおかげであります。沖繩県医師会医学会総会は1951年10月の第1回医学会から、今回で133回を迎えております。第129回はCOVID-19の感染拡大の影響で中

止となっています。これまで、会員による一般演題に加え、特別講演、シンポジウム、ミニレクチャーなどが行われてきました。本会是他府県にはない沖繩県独特の専門分野の垣根を越えた学術集会であり、沖繩県の地域医療の発展に大きく貢献してきました。本医学会総会に参加することは、勤務医にも開業医にも自分の専門以外の最近の進歩を学ぶことが出来、生涯教育にもなります。近年、開業医の先生方の医学会総会への参加が少なくなったと言われます。各地区医師会が開業医の先生方に積極的な参加を呼びかける必要があります。医学会総会の一般演題の発表は若手医師の学会発表の登竜門とも言われてきました。2001年6月に開催された第93回以来、スライド形式の発表からポスターセッションへ変更になっていますが、近年のコ

コロナ禍においては本学会も他の学術集会と同様に従来の対面方式から、対面とWebを併用したハイブリッド方式の開催に変わってきました。研修医部門では沖縄県医師会医学会賞を設け、エントリーした研修医による発表が行われ、その発表内容、質疑応答の仕方等が審査され優秀演題が選考されますが、このことは沖縄の研修教育の高い評価になっています。私は県立中部病院の第11期の研修医ですが、研修医時代に初めて、沖縄県医学会総会で演題を発表しました。あの時の緊張感はいまでも鮮明に覚えています。放射線治療の後遺症による直腸炎、膀胱炎を繰り返していた患者の症例でありました。

県立中部病院で2カ年の研修を終えた後、私は獨協医科大第一外科に入局しました。第一外科は消化器、一般外科でしたが、医局内で胃透視、内視鏡検査、超音波検査をやり、診断学を重視していましたので大変良いトレーニングを受けられました。胃癌、胆道系、乳癌の手術が多く、外科医としての技術は習得できるが、私は将来、総合医療、地域医療をやりたいと希望していましたので3年間で医局を辞めて沖縄に帰ってきました。沖縄では2カ年間、民間病院に勤務した後、昭和56年糸満で「糸満クリニック」を開業しました。開院当初は、糸満市内にはまだまだ医療機関が少なく、県立南部病院も開設していませんでした。1人で、診療、予防接種、学校検診と、また日曜日も診療していたので本当に忙しい毎日でありました。開業が落ち着いた頃、地域に高齢者の介護ニーズが高いことを知り、超高齢化社会を展望し、特別養護老人ホーム「朝日の家」を昭和61年に開設しました。また介護老人保健施設「サクラピア」を平成5年に開設しました。少子高齢化社会に突入した中で、高齢者の施設介護、また通所リハビリのニーズが増えてきたので、地域の高齢者から非常に喜ばれました。その後、クリニックは西崎病院として法人化することが出来ました。西崎病院が軌道に乗った頃、高齢者だけでなく、若い方の障害者や難病の方が増えつつある中で、障害を持った方々の自立支援、生活改善、身体機能の維持向上に向けた障害者支援施

設が必要であることを知り、身体障害者療護施設ソフィアを平成10年に開設しました。さらに障害者の身体機能の維持向上にもっと積極的にリハビリを提供する施設として、身体障害者更生施設ソフィアを平成19年に開設しました。また少子化が急速に進行し、その対策が重要課題になっているなか、将来性、未来性の大きい、次世代を担う子供たちの支援が必要であることを知り、自治体からの民間移譲を受けて、平成24年に以和貴保育園を開設し、令和4年には認定玉城こども園を開設することが出来ました。

私は、地域医療をやっていくには医師会活動が非常に大事だと思っています。医師会活動は地方自治体と協力していかないとうまく行きません。私は医師会活動に積極的に参加するようになり、医師会活動の中で先輩の先生方から地域医療の重要性をいろいろと教えていただきました。開業して3年目から南部地区医師会の理事を引き受け、理事16年、副会長8年、会長10年を勤めました。現在も、診療の傍ら、学校医、産業医、警察嘱託医を続けています。これからも体調が許す限り地域医療に頑張っていきたいと思っています。

今回の医学会総会の特別講演は琉球大学病院第一外科、高槻教授による「沖縄県における肝移植医療の現状と将来」であります。第一外科でも肝移植の症例が増えてきていると聞いています。沖縄県の肝移植の現状が詳しく聞けることを期待しています。ミニレクチャー①は沖縄県 保健医療部 地域保健課 疾病対策班 主任 森 理菜先生による「国や沖縄県の難病対策」についてであります。医療費助成や医療提供体制整備事業などについて講演していただきます。ミニレクチャー②は「認知症に伴う精神神経症状に対する漢方治療について」との演題で、北中城若松病院認知症疾患医療センターセンター長の遠藤一博先生に講演していただきます。高齢化社会で認知症の患者が増えてきました。その治療については、多くの先生方が苦労されていると思いますので、ぜひ参考にしていただきたいと思います。

COVID-19 の感染が広がり始めてから 3 年になります。第 7 波が猛威を振るいました。沖縄県医師会も医療非常事態宣言を発信していました。第 8 波が来るのではないとも言われていますが、コロナ禍が早く収束することを願っています。

最後に本会が若手医師の研鑽の場として、また多くの勤務医、開業医の先生方にとって生涯教育の場として。ますます発展することを期待して挨拶とします。

特別講演（抄録）

「沖縄県における肝移植医療の現状と将来」



琉球大学大学院消化器・腫瘍外科
琉球大学病院第一外科
教授 高槻 光寿

肝移植は 1960 年代に欧米で、1990 年代に本邦でも開始された医療であり、現在では保険適用されている一般的な治療であるが、沖縄県においては長らく患者数に見合うだけの手術は行われず、大半の症例が県外へ紹介搬送されていた。琉球大学病院では、1999 年から 2018 年までに 77 例の肝移植症例を自施設外（県外 76 例）に送り、身体的・経済的負担が大きかった。私自身は長崎大学時代に、国内外で 500 例を超える肝移植手術に関わってきており、2019 年 7 月に現職に着任した。病院の体制と方針を確認し、ぜひ琉大病院でも始めてほしい、とのことであったので、自施設でも施行できるように準備を始めた。肝臓内科はもちろん、感染症内科、

ICU を含めた麻酔科、精神科などへ協力をお願いし、適応評価について第三者機関である「琉球大学病院肝移植適応評価委員会」を琉大病院の委員会として組織した。メンバーは肝臓内科医（外部・内部）、肝臓外科医（外部）、感染症内科医（内部）、放射線科医（内部）に加えて、臨床倫理士にも参入いただいた。以上の準備ののち、2020 年 1 月に適応患者が発生、同 3 月に第一例目の生体肝移植を行った。40 代女性、原発性胆汁性胆管炎（PBC）による末期肝硬変の症例で、血液型不適合の夫が肝右葉を提供した。レシピエント、ドナーともに合併症なく経過し、患者は 3 週間、ドナーは 10 日で退院、術後 2 年半を経過した現在では元気に社会復帰されている。以後、本抄録執筆時点で 19 例の手術を行ってきた。成人 16 例、小児 3 例で、全例生体肝移植である。レシピエントの原疾患はアルコール性肝硬変（6 例、32%）と PBC を含めた自己免疫性疾患（7 例、37%）が多く、沖縄の特徴である可能性がある。小児症例は乳幼児の胆道閉鎖症 2 例と学童期のウィルソン病による劇症肝不全 1 例で、全例で親がドナーとして肝提供し、いずれも術後問題なく、元気に経過している。手術のクオリティが問われる術後 90 日以内の死亡例はなかったが、4 例をそれぞれ 4、6、7、11 ヶ月で失い、いずれも死

因は感染症によるものであった。生存例は全例完全に社会復帰し外来通院中である。ドナーの19例は全例合併症なく、輸血も要さず、中央値10日(8～10日)で退院し再入院もない。本邦のシステムでは、まず生体肝移植による実績を積んだのちに脳死肝移植施設として認定されるため、今後は生体ドナーの負担を減らすためにも脳死肝移植施設認定を目指している。

P R O F I L E

(学歴)

平成 6 年 3 月 長崎大学医学部卒業 (医学士)
平成 10 年 4 月 長崎大学大学院医学研究科入学
(臨床系 外科専攻)

(職歴)

平成 6 年 6 月 長崎大学 移植・消化器 (第2外科) 外科研修医 採用
平成 8 年 3 月 同上 退職
平成 8 年 4 月 山口県立総合医療センター 外科
平成 9 年 3 月 同上 退職
平成 9 年 4 月 京都大学移植外科 医員
平成 9 年 9 月 同上 退職
平成 9 年 10 月 長崎記念病院 外科
平成 10 年 3 月 同上 退職
平成 13 年 7 月 台湾高雄長庚紀念病院肝臓外科・肝移植外科 留学
平成 15 年 4 月 長崎大学 移植・消化器外科 医員
平成 17 年 4 月 長崎大学 移植・消化器外科 助教
平成 21 年 10 月 長崎大学 移植・消化器外科 講師
平成 27 年 2 月 同上 退職
平成 27 年 3 月 国立病院機構長崎医療センター 外科医長
平成 28 年 3 月 同上 退職
平成 28 年 4 月 長崎大学 移植・消化器外科 准教授
令和 元年 6 月 同上 退職
令和 元年 7 月 琉球大学 消化器・腫瘍外科 教授
現在に至る

ミニレクチャー (抄録)

(1) 「国や沖縄県の難病対策 (概要) ～医療費助成や医療提供体制整備事業等について～」



沖縄県 保健医療部 地域保健課 疾病対策班 主任 森 理菜

国の難病対策の経緯

国の難病対策は、昭和 47 年の「難病対策要綱」策定を機に本格的に推進されている。

医療の進歩や、難病患者・家族のニーズの多様化、社会・経済状況の変化の中で、類似疾患

であっても研究事業や医療費助成事業の対象とならないものが存在していたこと、医療費助成について都道府県の超過負担が続きその解消が強く求められていたこと、難病患者の長期にわたる療養と社会生活を支えるための総合的な対策が求められていること等の課題が出てきた。

こうした課題を踏まえて、平成 23 年から難病対策の見直しに向けた議論が開始され、平成 26 年 5 月に「難病の患者に対する医療等に関する法律 (以下、難病法という。)」が成立し、平成 27 年 1 月 1 日に施行された。

難病法では、公正かつ安定的な医療費助成制度、難病の治療に関する調査・研究、療養生活上の環境整備等が法律上位置付けられた。また、難病法に基づき制定された「難病の患者に対する医療等の総合的な推進を図るための基本的な方針」に基づき、医療提供体制整備や就労支援に係る施策等の一層の推進に向けて取り組むこととされている。

難病法に基づく特定医療費（指定難病）医療費助成制度について

医療費助成の対象は、指定難病として診断基準を満たす者のうち、1) 症状の程度が重症度基準を満たす者、又は2) 軽症高額該当基準を満たす者で、都道府県等が支給認定を行う。（支給認定をしないときは、都道府県等が設置する指定難病審査会に審査を求める。）

支給認定を受けると、指定難病の医療費負担が3割から2割に軽減され（2割・1割の方は2割・1割のまま）、所得に応じた自己負担上限額が設定される。

医療費助成の新規申請には難病指定医が記載した臨床調査個人票が必要で、支給認定後も毎年の更新申請時に、指定医が記載した臨床調査個人票による診断の確認や重症度の評価が行われる。

指定医の役割は、難病の医療費助成の支給認定申請に必要な診断書（臨床調査個人票）を作成すること、患者のデータを国が管理する難病登録管理システム（整備中）に登録することである。指定医の要件は、難病の診断又は治療に5年以上従事した経験があり、1) 厚生労働大臣が定める認定機関が認定する専門医の資格を有すること、又は2) 一定の研修を修了していることである。指定医の指定は5年ごとに更新する。

沖縄県の難病医療提供体制整備事業について

沖縄県における新たな難病医療提供体制整備については、厚生労働省から平成29年4月に発出された「都道府県における地域の実情に応じた難病の医療提供体制の構築について」を踏まえて進めており、沖縄県難病医療提供体制整備事業に位置付けている。

難病について、早期に正しい診断、適切な疾病管理のための治療継続及び良質な療養生活の確保を図ることができる医療提供体制とするために、平成31年度から沖縄県難病診療連携拠点病院及び難病医療協力病院を指定している。

また、各医療機関からの診療連携の相談に応じる難病診療連携コーディネーターを、拠点病院に配置している。

さらに、本事業の推進を図ることを目的に、県内の難病の医療提供体制の確保に関して必要な事項について検討・協議・評価を行う沖縄県難病医療連絡協議会を設置しているが、令和元年度～令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となっている。

今後、難病の早期診断や身近な医療機関での治療継続に向けた新たな医療提供体制の整備及び各機関の連携強化について協議を行うこと等が必要である。

その他沖縄県の難病対策関連事業

上記の他にも、難病相談支援センター事業や、難病医療相談事業、難病訪問診療事業、難病患者人工呼吸器用外部バッテリー等貸与事業等を実施している。

(2) 「認知症に伴う精神神経症状に対する漢方治療について」



北中城若松病院 認知症疾患医療センター
センター長 遠藤 一博

本邦は超高齢化社会を迎え、ますます認知症診療の重要度が増している。高齢者は、薬物代謝低下の観点から、特に薬物有害事象が生じやすい。よって、比較的薬物有害事象が少ないとされる漢方薬を使用する頻度も増加している。私の頻用3処方について概説する。

レビー小体型認知症DLBでは幻視やそれに基づく妄想が生じやすい。しかもそれらは記憶障害が軽度の段階でも生じる。DLB診断基準(McKeithら、2017年)では記憶障害ではなく、一般的には認知症の行動心理症状BPSDである幻視が中核的特徴に挙げられている。抑肝

散は元来子どもの夜泣きや痲癩に使用されてきた。現在では高齢認知症患者のBPSDに使用され奏功例の報告も多い。認知症診療では、認知機能低下進行抑制の観点から、BPSDに対しても抗認知症薬の導入が第一に推奨される。DLB診療では抗認知症薬コリンエステラーゼ阻害薬ChE-Iで幻視などのBPSDの改善が不十分な場合に第二選択薬として抑肝散が併用されることが多い。漢方薬は抗精神病薬でみられる過敏性が少ないため、薬物過敏を有するDLBに対して使用しやすいからである。また、神経系の多系統にわたって障害されるDLBは自律神経系の障害である起立性低血圧を生じやすい。甘草の薬物有害事象である偽性アルドステロン症がむしろ起立性低血圧の改善に貢献する可能性がある。

一方、薬物過敏を呈することがあまりないアルツハイマー型認知症の活発なBPSD(易怒性、攻撃性、焦燥性興奮、幻覚・妄想など)にも抑肝散は使用されるが、抗精神病薬に比較して奏効率が低い。しかし、抗精神病薬はBPSDには適応外使用であること、死亡率上昇のリスクや特有の薬物有害事象があるため、精神科以外

の一般臨床医には使用しにくい。そこでBPSD制御に関して抑肝散のみではパワー不足の場合に黄連解毒湯を併用するという方法がある。この場合は幻覚、妄想に対してよりも、特に易怒性と攻撃性が改善する例が多い。ただし、漢方薬のポリファーマシーや薬物有害事象(偽性アルドステロン症、間質性肺炎、肝障害、腸間膜静脈硬化症など)に留意する必要がある。

アパシーはどの認知症病型でも高頻度に認められる不活発なBPSDの代表格である。アパシーは脳内のアセチルコリンAch低下と関連がある。遠志が神経細胞のコリンアセチルトランスフェラーゼ活性を上昇しAch産生を促進するという実験データがある。ChE-Iのみでアパシーが改善しないときは(遠志を含有し、気血両虚に対する漢方薬である)人參養榮湯を追加処方することでアパシーや、フレイルの原因となる体重減少が改善する可能性がある。以上漢方薬3処方を取り上げた。超高齢化社会において、“Living well with dementia”の観点から、比較的薬物有害事象が少ないとされる漢方薬の存在感がますます増しているといえよう。



左から、優秀賞(研修医部門Ⅱ)坂井直哉先生、最優秀賞(研修医部門Ⅱ)又吉広菜先生、最優秀賞(研修医部門Ⅰ)又吉貴也先生、優秀賞(研修医部門Ⅰ)横田雄太郎先生

一般講演 演題・演者一覧

< 口演部門 >

沖縄県医師会医学会賞 (研修医部門)

- 1 骨粗鬆症に対するデノスマブ皮下注により低カルシウム血症をきたした一例
沖縄赤十字病院 高橋 桜子
- 2 びまん性肺疾患の経過観察中に進行性の肺高血圧症、腎機能障害、溶血性貧血を認めた症例
ハートライフ病院 初期研修医 内科 上原 知也
- 3 SGLT2 阻害薬と糖質制限の落とし穴
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合内科 山城 尚大
- 4 詳細な問診、身体所見と超音波所見から早期診断・治療介入できた巨細胞性動脈炎の一例
沖縄県立中部病院 内科 岡本 莉佳
- 5 小児期から進行した若年性汎血球減少症
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 横田 雄太郎
- 6 CT 所見から再度問診を行い、保存的治療で改善した小腸アニサキス症の2例
大浜第一病院 外科 佐治 銀河
- 14 詳細な身体診察が診断に結びついた視神経脊髄炎：症例報告
沖縄協同病院 研修医 宮崎 大地
- 8 顔面外傷による眼窩コンパートメント症候群に対して救急外来で緊急外眼角切開術を施行した一例
友愛医療センター 初期研修医 又吉 貴也
- 9 挿管歴のない成人女性の気管狭窄による挿管困難の経験
浦添総合病院 久保 史弥
- 10 複数の病態が連続して意識障害をくり返した高齢者の一例
中頭病院 研修医 山田 衛
- 11 感染性心内膜炎術後に小腸出血をくりかえし、von Willbrand 因子低下が原因であった1例
浦添総合病院 榎 泰臣
- 12 COVID-19 治療中に発症した巨大腸腰筋血腫の1例
沖縄県立中部病院 総合内科 高江洲 紗良
- 13 感覚障害主体で診断が難しかった視神経脊髄炎スペクトラム障害 NMOSD の1例
琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター 津嘉山 真由
- 7 救急室での CT 検査で慢性硬膜下血腫が見つかったことで早期閉鎖により診断の遅延に至った感染性心外膜炎の1例
沖縄県立北部病院 高江洲 真
- 15 ブリッジ体操後に生じた surfer's myelopathy の小児例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 坂井 直哉
- 16 急性期脳梗塞に対する“t-PA skip” Mechanical Thrombectomy
地方独立行政法人那覇市立病院 喜舎場 一貴

- 17 脳底動脈の急性閉塞による脳梗塞に対して機械的血栓回収療法を行なった2症例の検討
中部徳洲会病院 伊藤 真之介
- 18 超急性期脳梗塞症状を主訴とした急性心筋梗塞に対し血栓溶解療法にて加療、心筋虚血の改善を認めたと1例
南部徳洲会病院 救急診療科 安次嶺 裕
- 19 門脈ガス血症患者が、シャントを介さない経路で脳動脈空気塞栓症を起こし急死した1例
沖縄県立宮古病院 総合診療科 中井 勝也
- 20 右下腹部痛で初診時に診断困難であった正常卵巣萎縮の1例
友愛医療センター 初期研修医 又吉 広菜

産婦人科

- 21 筋腫分娩を呈する体下部粘膜下筋腫に発生した扁平上皮癌の1例
友愛医療センター 産婦人科 吉川 和泉
- 22 術後早期に再発した後腹膜平滑筋肉腫の1例
友愛医療センター 産婦人科 前濱 俊之
- 23 パルトリン腺嚢胞との鑑別を要した aggressive angiomyxoma の1例
友愛医療センター 産婦人科 金子 侑暉
- 24 コントロール不良の2型糖尿病に発症した尖圭コンジローマの1例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 産婦人科 土井 生子

小児科

- 25 抗 MOG 抗体陽性急性散在性脳脊髄炎の小児の1例
中部徳洲会病院 初期研修医 金 秀珍
- 26 短期間に著しい改善が見られた重症頭部外傷の1例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 研修センター 佛坂 智仁
- 27 Case report : A healthy 10-year-old male child with a lung abscess
中部徳洲会病院 小児科 田崎 康太郎

呼吸器 (外科)

- 28 著明な皮下気腫、縦隔気腫で搬送され両側気胸が疑われた1例
中頭病院 呼吸器外科 嘉数 修
- 29 胸腔鏡下に切除した後縦隔発生気管支原性嚢胞の1例
中頭病院 呼吸器外科 賀来 岳
- 30 左肺下葉部分切除を施行した孤立性線維性腫瘍 (SFT) の1例
中頭病院 呼吸器外科 柱本 まどか
- 31 慢性心嚢液貯留に対して胸腔鏡下左心膜開窓術を施行した1例
中頭病院 呼吸器外科 村上 嘉哉
- 32 左 B3c 入口部に発生した inflammatory myofibroblastic tumor (IMT) の1例
中頭病院 呼吸器外科 大田 守雄

呼吸器 (内科) I

- 33 沖縄病院における肺癌周術期化学療法
国立病院機構沖縄病院 呼吸器腫瘍科 久田 友哉
- 34 COVID-19を契機にGood症候群が疑われ、サイトメガロウイルス肺炎とマ尔特フィリア肺炎/敗血症を合併した一例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
呼吸器内科 船田 圭輔
- 35 家族内で複数発症を認めた夏型過敏性肺炎の1例
おもと会 大浜第一病院 初期研修医 笹原 弘道
- 36 沖縄県における新型コロナウイルス感染症多発の要因 ~特に第6波、第7波について~
自宅会員 久田 友治

循環器 (内科) I

- 37 ドクターカー (Mobil CVS) 導入の初期成績
沖縄県立南部医療センター・こどもセンター
心臓血管外科 阿部 陸之
- 38 閉塞性動脈硬化症における下腿足部動脈病変のみの症例に対する血行再建術の検討
友愛医療センター 心臓血管外科 島袋 伸洋
- 39 心房細動を有する患者の繰り返す大腸出血に対し、左心耳結紮術を行った一例
浦添総合病院 循環器科 貴島 渉

循環器 (外科) II

- 40 右小切開 MICS にて左房粘液腫摘出術を施行した2例
中部徳洲会病院 樋熊 佑香
- 41 当院における右小開胸下大動脈弁置換術 (MICS-AVR) の現状 - MICS のメリットを生かすための工夫 -
琉球大学病院 胸部心臓血管外科 前田 達也
- 42 大動脈疾患に対する低侵襲心臓手術 (MICS Ao) の有用性について
沖縄県立南部医療センター・こどもセンター
心臓血管外科 宗像 宏
- 43 心室中部閉塞性肥大型心筋症に対して拡大心筋切除術を行った一例
琉球大学胸部心臓血管外科 喜瀬 勇也
- 44 演題取り下げ

循環器 (外科) II

- 45 透析患者に生じた冠動脈仮性動脈瘤の1手術例
中部徳洲会病院 片方 康博
- 46 根治的閉鎖のために肺動脈横切を要した冠動静脈瘤の2例
琉球大学胸部心臓血管外科 宮石 慧太
- 47 MICS CABG における LAD へのグラフト選択
友愛医療センター 心臓血管外科 古賀 雅貴
- 48 劇症型心筋炎に対して循環補助治療を行ない独歩で退院した一例
南部徳洲会病院 心臓血管外科 兼次 駿輔
- 49 当院における外傷性胸部大動脈損傷の短期・中期成績
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
心臓血管外科 藤井 孝之

循環器 (外科)

- 50 当科における Frozen elephant trunk 法を用いた全弓部置換術の検討 - 従来型末梢側直接吻合法との比較を中心に -
浦添総合病院 心臓血管外科 盛島 裕次
- 51 食道通過障害をきたした感染性胸部大動脈瘤破裂の一例
沖縄県立中部病院 心臓血管外科 狩野 安里
- 52 当科における Excluder IBE の初期成績
友愛医療センター 檜山 耕平
- 53 特発性孤発性腎動脈解離に対して抗凝固療法による保存的治療を行った一例
中部徳洲会病院 心臓血管外科 宮城 基
- 54 感染が疑われた膝窩動脈瘤に対し外側アプローチで血行再建術を施行した一例
沖縄県立中部病院 心臓血管外科 石橋 慧一

一般外科

- 55 活動性出血を伴う鈍的脾損傷に対して TAE 併施で NOM を完遂した1例
沖縄県立中部病院 外科 森 祐太
- 56 転落外傷による extravasation を有する腎損傷 grade 3aH2U1 に対して TAE を施行し腎臓を温存した一例
沖縄県立中部病院 外科 福添 大地
- 57 腹部刺創による十二指腸上行脚損傷の一例
沖縄県立中部病院 外科 栗林 宏次
- 58 膝上下肢切断を行い救命し得た高齢者下腿壊死性軟部組織感染症の1例
沖縄県立中部病院 外科 西田 大希

消化器 (外科)

- 59 診断に難渋した低異軽度虫垂粘液性新生物 (LAMN) の切除例
浦添総合病院 外科 今井 貴浩
- 60 BRAF 変異陽性の横行結腸癌多発転移に対して2次治療として Encorafnib+Binimetinib+cetuximab の3剤併用療法が奏功した1例
友愛医療センター 外科 松本 大
- 61 Meckel 憩室に起因する再発性の癒着性腸閉塞を来した1例
沖縄県立中部病院 外科 渡邊 雄太
- 62 ジェノゲスト内服中にも関わらず消化器症状の増悪をきたした回盲部子宮内膜症の一例
沖縄県立中部病院 外科 横溝 玲奈
- 63 胃軸捻転再発に対して内視鏡下固定術を施行となった一例
中部徳洲会病院 初期研修医 上山 聡仁

整形外科 I

- 64 月状骨骨棘で中・環・小指総指伸筋腱 (EDC3・4・5) 皮下断裂を発症した1例
ハートライフ病院 整形外科 渡慶次 学
- 65 ばね指に対し A1 プーリー切開術を施行した後に愁訴が残った3例
与那原中央病院 喜屋武 諒子
- 66 右半身麻痺で発症した脊髄硬膜外血腫の一例
南部徳洲会病院整形外科 中村 友紀

整形外科Ⅱ

- 67 Dual mobility cup 使用 THA 術後脱臼の 1 例
友愛医療センター 整形外科 永山 盛隆
- 68 当院を受診した大腿骨近位部骨折についての検討
海邦病院 米須 寛朗
- 69 大腿骨近位部骨折早期手術実践についての状況報告と考察
沖縄県立中部病院 普天間 朝拓
- 70 単純レントゲン側面像で頸部に後捻を認めた安定型大腿骨頸部骨折に対し、後療法として免荷を行った治療経験
沖縄協同病院 整形外科 若林 創

腎・泌尿器

- 71 夜間頻尿に対するイミダフェナシン最適投与方法に関する多施設臨床研究
友愛医療センター 又吉 幸秀
- 72 友愛医療センターにおける腎移植 230 例の検討
友愛医療センター 移植外科 大田 守仁
- 73 当院におけるロボット支援下腎部分切除術 58 例の検討
中部徳洲会病院 泌尿器科 横井 那哉

内分泌・代謝・血液

- 74 筋強直性ジストロフィーを基礎疾患に持つ患者に生じ、鑑別を複雑にした銅欠乏性貧血の一例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 前田 和俊
- 75 低 Na 血症の精査過程で尿崩症が顕在化し、Na 値補正に注意を要した仮面尿崩症・続発性副腎不全の一例
中頭病院 内科 富名腰 理子
- 76 長期にわたる甲状腺ホルモン欠乏による重篤な粘液水腫性クリーゼの 1 例
中頭病院 総合内科 渡真利 紫青

神経内科

- 77 突然発症した下肢脱力を契機に診断されたギランバレー症候群の一例
南部徳洲会病院 救急診療科 成田 智絵
- 78 心原性脳梗塞発症後の 2 次予防に対する当院の新たな提案
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 心臓血管外科 山里 隆浩
- 79 おきなわ脳卒中地域連携委員会 令和 1 年度 DPC 分析結果
琉球大学病院 第三内科 崎間 洋邦
- 80 サイバーナイフによる転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の初期経験
南部徳洲会病院 名子 明里

救急

- 81 ボタン電池誤飲により食道粘膜壊死をきたした成人の 1 例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 中澤 城
- 82 一酸化炭素中毒に COVID-19 感染症を合併し、当院にて高気圧酸素療法を行った一例
琉球大学病院 救急部 島袋 清乃
- 83 小児の高所墜落による高エネルギー外傷の一例
琉球大学病院 救急部 西原 史真
- 84 交通外傷による左前下降枝冠動脈解離に対し冠動脈バイパス術を施行した一例
琉球大学病院 救急部 城間 恵介
- 85 演題取り下げ

その他

- 86 救急外来で角膜提供に繋げることができた高齢者心停止の 1 症例
浦添総合病院 座波 健哉
- 87 臨床事務担当者に何が求められるか？
琉球大学病院 大内 元

